

丹波山地の微小地震活動低下と2004年4月16日亀岡付近M3.7の地震について

1999-2004APR
SATURN.ABU.KYOTO-U
Depth < 30km

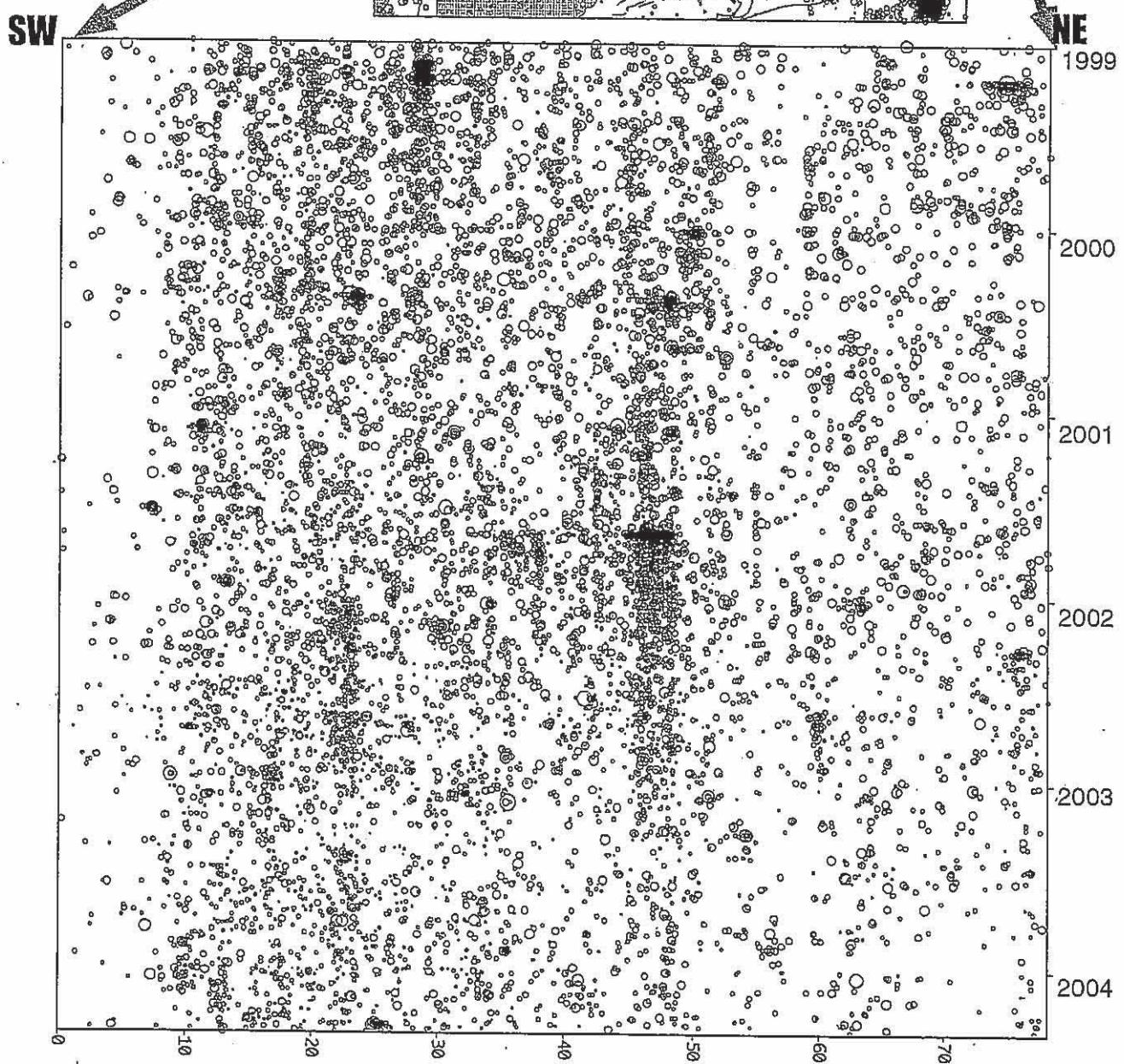


図1：1999年1月～2004年4月の丹波山地から琵琶湖西岸にかけての微小地震の時空間分布。京都大学防災研究所地震予知センター阿武山系データ（ただし、2001年までは再検測、2002年以降は自動処理による）。

1999-2004APR
SATARN.ABU.Kyoto-u
Depth<30km

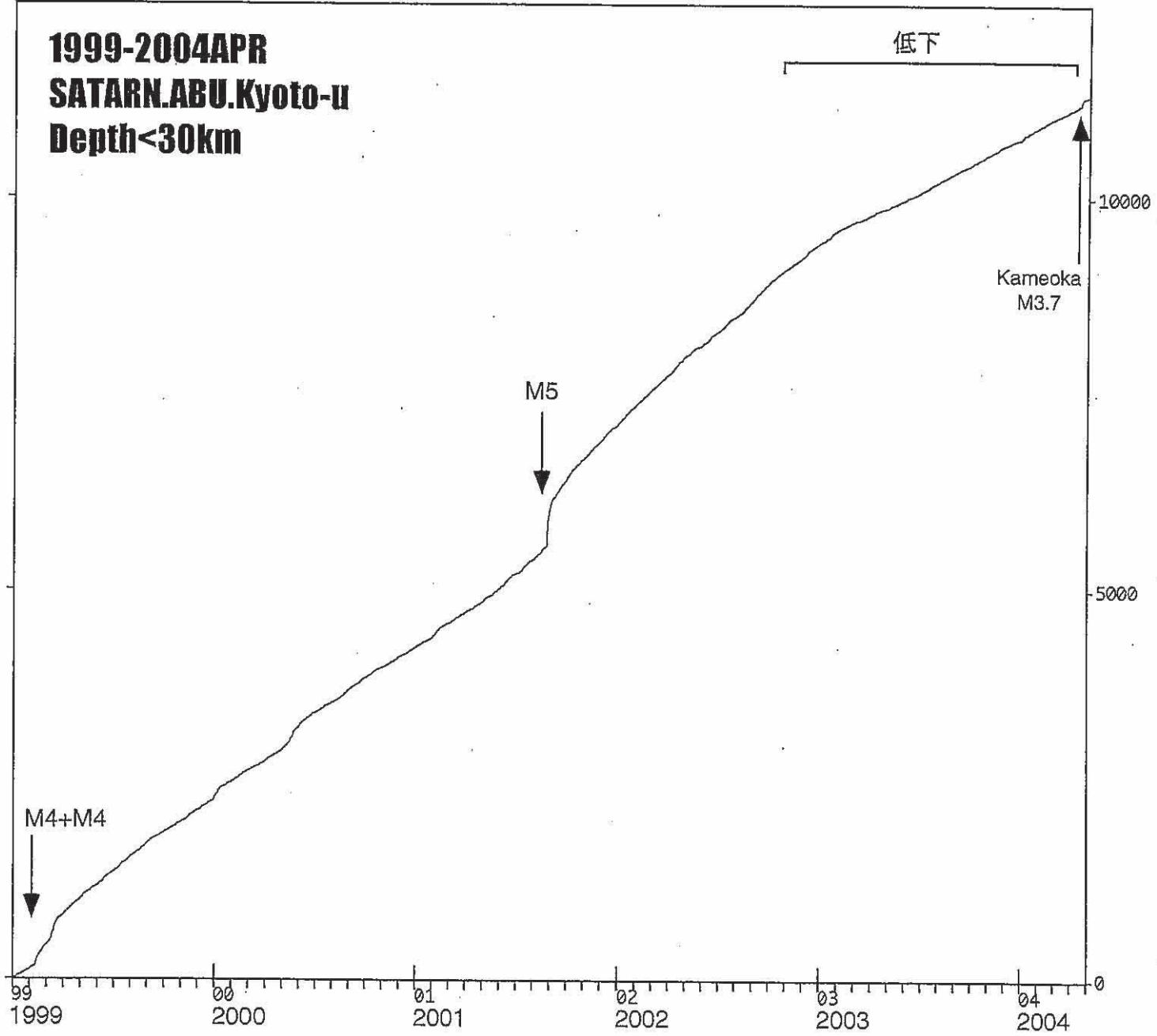


図2：1999年1月～2004年4月の丹波山地の微小地震の積算発生数。京都大学防災研究所地震予知研究センター阿武山系データ。空間範囲は図1内の矩形範囲と同じ。2003年1月末頃から活動が低下したまま現在に至っている。丹波山地の周辺地域（柳ヶ瀬断層、和歌山市周辺、六甲・淡路島地域、山崎断層等）では、このような低下は見られない。2001年8月および1999年2月の増加はM4～5の中規模地震の余震活動。

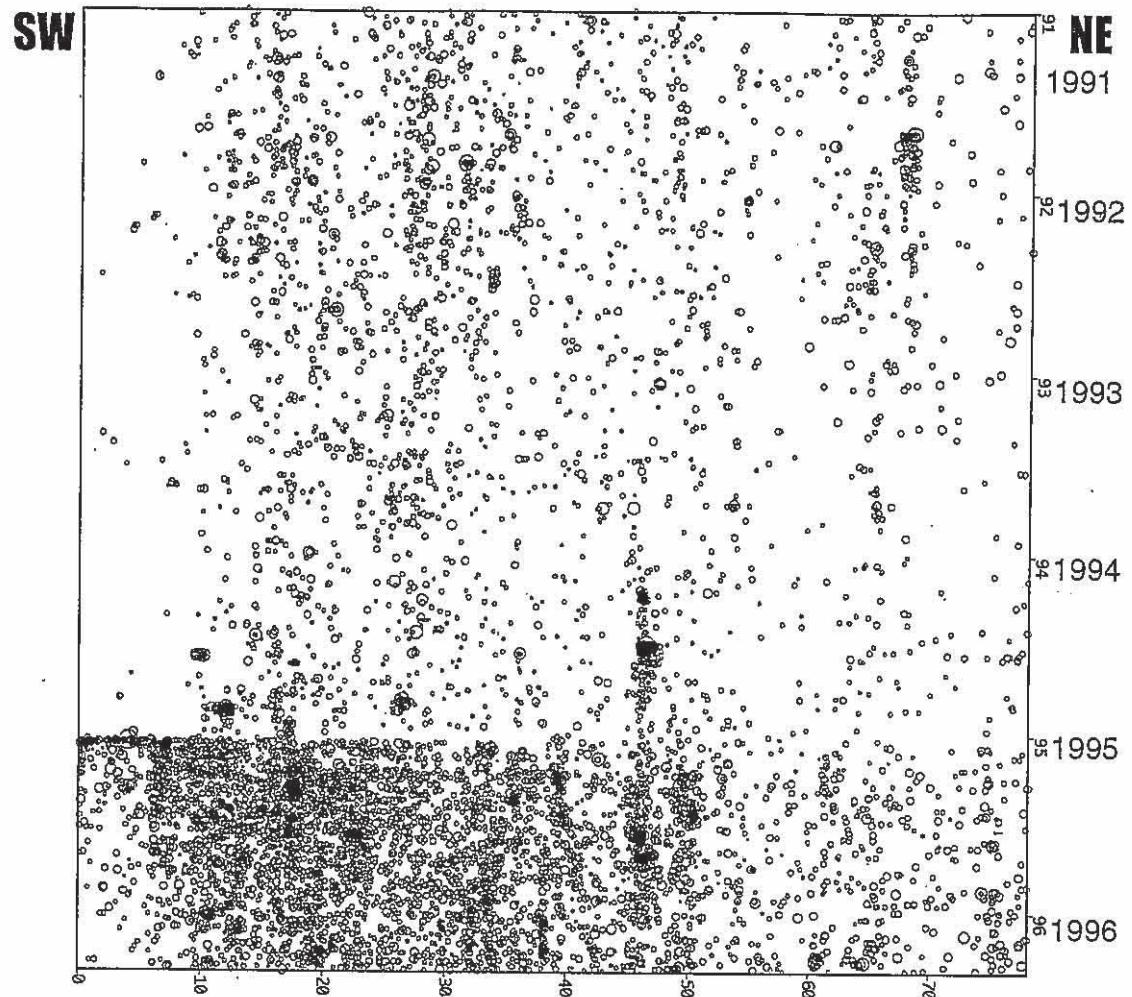


図3：1991年1月～1996年4月の丹波山地の微小地震の時空間分布。京都大学防災研究所地震予知研究センター阿武山系データ。空間範囲は図1内の矩形範囲と同じ。兵庫県南部地震直後から丹波山地の微小地震活動は活発化した。

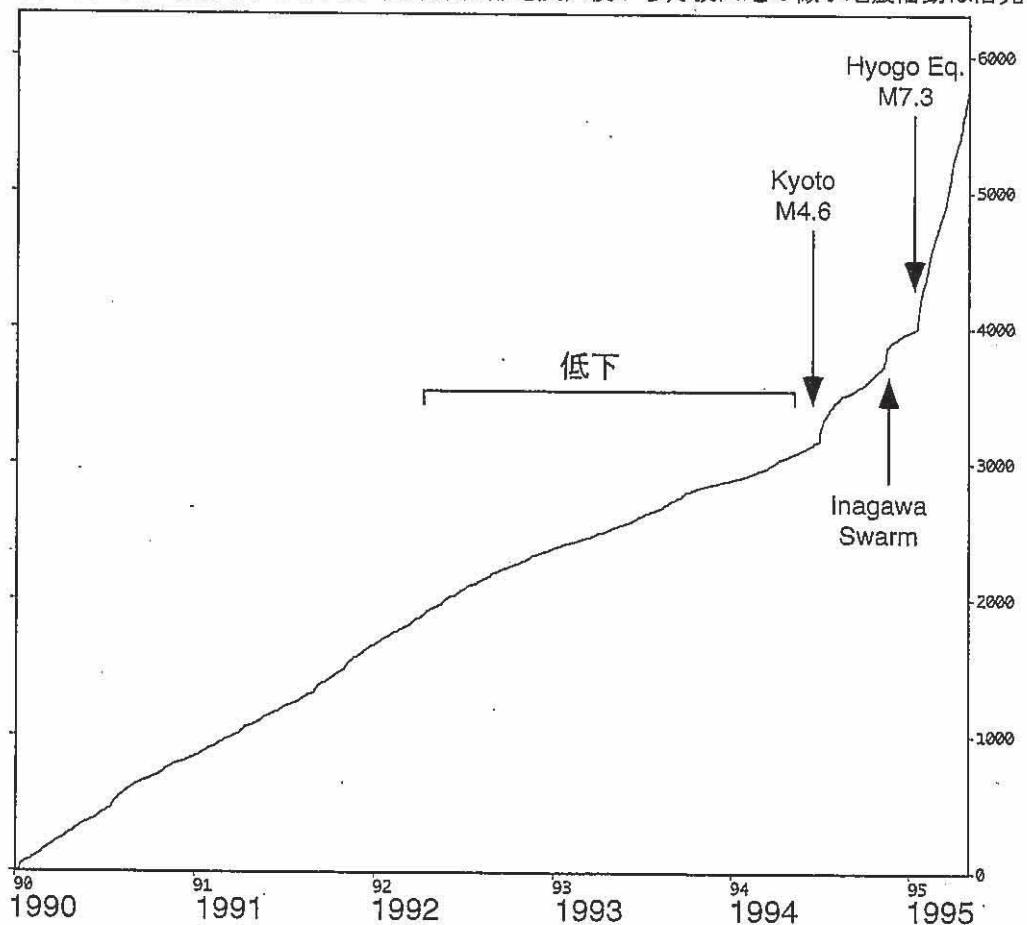


図4：兵庫県南部地震前後の1990年1月～1995年4月の丹波山地の微小地震の積算発生数。京都大学防災研究所地震予知研究センター阿武山系データ。空間範囲は図1内の矩形範囲と同じ。兵庫県南部地震前の1992～1994年前半の期間、丹波山地の微小地震活動は低下し、有感地震 ($M > 3.5$) もほとんど起きていなかった。